

2014年度

(公財)愛知大学教育研究支援財団 奨励賞授与式

後援会奨励賞 同窓会奨励賞 クラブ愛知賞 資格試験合格者奨励賞

愛知大学 公務員試験合格者奨励賞授与式



日時 | 2015年3月7日(土)11:00~12:30

場所 | 車道校舎 本館3階 コンベンションホール

プログラム

- 一. 開式
- 一. 挨拶 (公財)愛知大学教育研究支援財団 理事長 加藤満憲
- 一. 後援会奨励賞
 - 選考結果報告 愛知大学 学生部委員長 永戸 力
 - 奨励賞授与 愛知大学後援会 会長 兵藤文男
- 一. 同窓会奨励賞
 - 選考結果報告 愛知大学同窓会 広報委員長 臼井 実
 - 奨励賞授与 愛知大学同窓会 会長 土井義昭
- 一. クラブ愛知賞
 - 選考結果報告及び授与 クラブ愛知 会長 服部晋吾
- 一. 愛知大学公務員試験合格者奨励賞
 - 試験結果報告
 - 愛知大学 就職委員長 田中英式
 - 奨励賞授与 愛知大学 学長 佐藤元彦
- 一. 受賞者代表謝辞
 - 公務員試験合格者奨励賞受賞者 代表
 - 後援会奨励賞受賞者 代表
 - 同窓会奨励賞受賞者 代表
- 一. 閉式

● 最優秀奨励賞

個人

ふじた よしひさ
藤田 佳久氏 | 愛知大学名誉教授



愛知大学の知名度向上に貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

藤田佳久さんは、愛知大学が1995年以来続けている国際貢献活動の一つである沙漠緑化活動「緑の協力隊」ポプラの森が所属する日本沙漠緑化実践協会の第2代会長を務めています。

また、東亜同文書院大学記念センターの第2代センター長として、文科省オープン・リサーチセンタープロジェクトを立ち上げ、当センター発展に多大なご尽力され、同記念センターの資料展や講演会を通じて全国各地に愛知大学の名を広めました。

同時に、現役教授時代はゼミ活動を通じて学生達に対しフィールドワークや地域研究をさせて広い視野をもった人材の育成に勤められました。

- ◇ 略歴 ◇ 1940(昭和15)年 豊橋市生まれ。1963(昭和38)年 愛知学芸大学(地理学)卒業後、名古屋大学大学院修士課程、博士課程を経て、1967(昭和42)年名古屋大学付属中・高校教諭。1969(昭和44)年奈良大学専任講師(のち助教授)、1979(昭和54)年愛知大学文学部助教授に着任、1982年(昭和57)年教授。1998(平成10)年～2000(平成12)年イギリス・レディング大学客員教授。2011(平成23)年定年退職、愛知大学名誉教授・愛知大学東亜同文書院大学記念センター・フェロとなる。1976(昭和51)年理学博士。学内では大学院長、総合郷土研究所長、情報処理センター長、東亜同文書院大学記念センター長、また大学院中国研究科・文学研究科修士・博士課程設置準備委員長も務め、5～6年間文科省と交渉。日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会、歴史地理学会など評議員、経済地理学会中部支部長、愛教大地理学会会長。国、県、各市町村 NPO の地域整備、地域づくり関係で多くの委員、委員長。飯田市遠山郷で地域づくり「神様王国」立ち上げ、展開中。専攻は地理学で、農山村・都市・災害・東亜同文書院・中国・イギリスの地域研究など著書、論文多数。

きくた みよじ
菊田 三代治氏 | 昭和51年文学部文学科卒業



ウェイトリフティングの普及と日本選手団の強化育成

◆ 推薦趣旨 ◆

菊田三代治さんは在学中にウエイトリフティング部に所属し、故植屋春見教授の指導の下でトレーニングに励みました。

卒業後は、石川県公立高校の教諭(英語)となりましたが、ウエイトリフティングへの魅力が断ちがたく、大阪体育大学に再度入学し体育教員免許を習得しました。

その後、石川県立高校の保健体育教諭となり、ウエイトリフティングの指導を始め、1985年の石川インターハイでは珠洲実業高校を優勝に導びきました。

以後、国民体育大会、インターハイはじめ各種の大会で菊田さんの指導を受けた石川県選手の活躍が目され、2001年より全日本男子チームの監督に就任し、アテネオリンピックでは監督を、ロンドンオリンピックではコーチを務めました。

現在は日本ウエイトリフティング協会の常務理事、金沢学院大学ウエイトリフティング部総監督を務め、リオデジャネイロ、東京オリンピックの入賞を目指して指導を続けております。

- ◇ 略歴 ◇ 1972(昭和47)年3月 石川県立飯田高等学校卒業。1976(昭和51)年3月 愛知大学卒業。1980(昭和55)年3月 大阪体育大学卒業。1980(昭和55)年4月 石川県教育委員会 教員採用。2014(平成26)年3月 石川県教育委員会 定年退職。2014(平成26)年4月 金沢学院大学ウエイトリフティング部総監督(職員)。

● 優秀奨励賞

個人

くわえ りょういち
桑江 良一氏 | 昭和38年法経学部法学科卒業



沖縄県の産業の発展に貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

桑江良一さんは、愛知大学卒業後、オリエンタル煙草に入社し、現在は琉球協同飼料株式会社、株式会社沖縄ホーム代表取締役会長として地元沖縄県の食品産業の発展に多大な寄与をしています。

公職としては、沖縄県工業連合会副会長、沖縄県食品産業協議会会長を歴任し、平成26年6月17日、公益財団法人沖縄県産業振興公社理事長に就任。

沖縄県の中小企業の経営基盤の強化、創業の促進、産業振興に必要な諸事業を行い、さらなる沖縄の産業の健全な発展に貢献しています。

- ◇ 略歴 ◇ 1963(昭和38)年 愛知大学法経学部法学科卒業。1963(昭和38)年5月 オリエンタル煙草株式会社入社。1965(昭和40)年9月 株式会社第一企業入社。1977(昭和52)年11月 株式会社丸協農産取締役。1991(平成3)年2月 沖縄県飼料事業協同組合理事。1995(平成7)年6月 有限会社具志頭畜産代表取締役会長。1995(平成7)年9月 沖縄食鶏加工株式会社代表取締役。琉球協同飼料株式会社代表取締役専務。1997(平成9)年12月 沖縄共同サイロ株式会社取締役。1999(平成11)年11月 株式会社沖縄ホーム代表取締役社長。2000(平成12)年7月 財団法人日本関税協会 沖縄支部理事。2001(平成13)年6月 社団法人沖縄県工業連合会副会長。2002(平成14)年5月 沖縄県フレッシュミート事業協同組合理事長。2003(平成15)年5月 沖縄県食肉事業協同組合副会長。2005(平成17)年9月 沖縄食鶏加工株式会社代表取締役会長。2006(平成18)年2月 株式会社那覇ミート代表取締役会長。9月 株式会社りゅうとう取締役。2007(平成19)年9月 琉球協同飼料株式会社代表取締役会長。2008(平成20)年5月 社団法人日本食肉加工協会監事。2010(平成22)年6月 社団法人沖縄県経営者協会理事。11月 那覇商工会議所2号議員。2011(平成23)年6月 沖縄県食品産業協議会会長。11月 株式会社沖縄ホーム代表取締役会長。2014(平成26)年6月 公益財団法人沖縄県産業振興公社理事長。2008(平成20)年6月 第42回オグレスビー氏工業功労者賞。

なかむら ときこ
中村 都祁子氏 | 昭和37年短期大学部卒業



外国人への日本語教育で地域に貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

中村都祁子さんは、愛知県公立小中学校教諭を30年間務めた後、この地域に増加する外国人のための「日本語教室」(あかばねひらがなの会)を発足させ、文化交流・国際親善・農業振興等に貢献しています。

また、「総務省行政相談委員」・「総務省男女共同参画担当委員」等の任命を受け、住民の相談、地域環境の好ましい発展に貢献してきました。

- ◇ 略歴 ◇ 1962(昭和37)年4月～30年間 愛知県公立小中学校教諭。1992(平成4)年4月～21年間 総務省行政相談委員。2003(平成15)年4月～10年間 総務省男女共同担当委員。
2006(平成18)年9月～現在 あかばねひらがなの会代表。

なかしま やすたか やなぎや うたろう
中島 康貴(柳家 右太楼)氏 | 平成7年文学部史学科入学



噺家として 東京の寄席で活躍

◆ 推薦趣旨 ◆

柳家右太楼さんは在学中に落語研究会に所属し、3年次生には会長として部員を引っ張り活躍をしました。

2000年11月に柳家権太楼師匠に入門しプロの噺家としての道を進みました。

2004年7月に二ツ目に昇進し2008年2月には「第18回北とびあ若手落語家競演会」で奨励賞を受賞するなど、確実に実力を備えてきました。

二ツ目昇進後は地元岐阜で年3回自身の勉強会を開き、東京の寄席や落語会での出番も着実に増え、その努力が認められ2015年3月より真打(柳家燕弥)に昇進することが決定しました。

愛知大学出身の初の真打であり、ここからが噺家としての真のスタートラインですがこれからの活躍がますます期待される若手噺家の一人です。

- ◇ 略歴 ◇ 2000(平成12)年11月 柳家権太楼師匠に入門、前座名「さん太」。2004(平成16)年7月 二ツ目に昇進、「右太楼」に改名。2008(平成20)年2月 第18回北とびあ若手落語家競演会奨励賞受賞。2015(平成27)年3月 真打昇進決定「柳家燕弥(やなぎや えんや)」に改名。

奨励賞

個人

すやま たかし
酔山 隆氏 | 昭和31年法経学部経済学科卒業



遠州地域の郷土史研究に貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

酔山隆さんは昭和31年愛知大学法経学部経済学科を卒業後、清水銀行に就職しました。

仕事の傍ら、趣味の城、史蹟巡りをしていましたが、50歳過ぎたころから本格的に郷土史を学び、今日では遠州地域に於ける郷土史においては誰もが知る郷土史家の一人となりました。まさに浜松地域の歴史ブームを創った代表の人物であり、地域学術の貢献には多大なるものがあります。

- ◇ 略歴 ◇ 1956(昭和31)年 愛知大学法経学部経済学科卒業。1956(昭和31)年～1994(平成6)年まで清水銀行及び関連会社勤務。1983(昭和58)年12月 曳馬郷土史研究会設立、会長を経て現在相談役。2008(平成20)年 遠州名城の会創立、会長を経て相談役。著書「遠州の寺社・霊場」他論文数点。

もり ひろあき もり ていせい
森 博昭(森 丁斎)氏 | 昭和48年法経学部経営学科卒業



学術文化の高揚に貢献ならびに伝統工芸の伝承普及

◆ 推薦趣旨 ◆

森博昭さんは、愛知大学卒業後、故郷の地である岡山県備前市において歴史ある「備前焼」の作家として陶芸に打ち込み、伝統的な古備前の作風にとどまらず、近代的センスを注入されるなど気鋭の作家として活躍をされています。

その新しい色彩感覚の製作方法は特許を取得されるほどのものであり、他の者が真似できない独自の芸術性を高く評価されています。

その評価は岡山県内にとどまらず、大阪や名古屋で個展を開催されるまでになっており、多くの陶芸愛好家に人気を博しています。

このことは、中国地方にあって出身大学である愛知大学の名を大いに高めるものであると同時に、陶芸を愛する同窓生の間でも評価が高く、気安く製作指導をするなど陶芸普及にも大いに貢献しています。

- ◇ 略歴 ◇ 1949(昭和24)年 窯元六姓寺見家の家系森家に生まれる。1973(昭和48)年 愛知大学法経学部経営学科卒業。父、風来のもとで陶芸を習う。1999(平成11)年 日本工芸会正会員認定。2012(平成24)年「陶磁器における稲わらによる施釉方法」特許取得。
個展 三越(銀座、名古屋、高松)、大阪阪急梅田本店、池袋東武本店 等
陶歴 1979(昭和54)年 日本伝統工芸展 入選。1989(平成元年) 第1回陶芸ビエンナーレ '89 入選。第10回日本陶芸展 入選。朝日陶芸展 入選。1992(平成4)年 朝日陶芸展 入選。1993(平成5)年 県展 県展賞受賞。1997(平成9)年 第5回陶芸ビエンナーレ '97 入選。焼き締め陶公募展 奨励賞受賞。1999(平成11)年 日本伝統工芸中国支部展 山陽新聞社賞受賞。朝日陶芸展 入選。日本伝統工芸展 入選。日本工芸会正会員認定。県展 岡山県教育長賞受賞。 その他多数入選。



柔道指導による人材育成の推進

◆ 推薦趣旨 ◆

大石公平さん（1997年経営学部卒）は、学生時代に東海学生柔道体重別選手権大会で3連覇を果たし、卒業後も実業団で柔道競技者としての実績を残すなど柔道に対して熱い想いをもち取り組まれてきました。現在は愛知真和学園大成中学・高等学校にて女子柔道部の監督として目覚ましい活躍をされています。熱心な指導が実を結び、中学・高校ともに全国優勝者を多数輩出するなど数々の実績を残しています。とりわけ中学女子柔道部は、全国3大会（団体）を2012年から2014年まですべて制し、前人未到の3年連続の三冠を達成したことは特筆すべきことです。

◇ 略歴 ◇ 1975(昭和50)年 愛知県生まれ。1997(平成9)年 愛知大学経営学部卒業。ダイコロ株式会社入社。実業団で柔道を続け、1998(平成10)年、1999(平成11)年全国実業団66kg級3位、1999(平成11)年バンコク国際柔道大会66kg級優勝。2001(平成13)年より愛知真和学園大成中学・高等学校教諭として着任。男子柔道部コーチを経て、2006(平成18)年より女子柔道部を創部し、監督に就任。国内大会、国際大会優勝者多数輩出。昨年度卒業の近藤亜美が2014(平成26)年チェリヤビンスク世界柔道選手権大会で優勝し、創部9年目で初の世界チャンピオンが誕生。中学女子柔道部、全国大会3年連続三冠達成。



障害者スポーツへの取り組み

◆ 推薦趣旨 ◆

八木克勝さんは、先天性両橈骨欠損症をもって生まれましたが、中学一年生から卓球を始め、高校三年生の時に障害者卓球に出会いました。愛知大学卒業後は和光純薬工業株式会社（武田薬品工業株式会社の化学薬品部門を分社化）に就職し現在に至っております。今までの成績は国際クラス別大会 class7（立位の部で2番目に重い階級）で優勝3回、準優勝2回、3位1回の成績をおさめています。現在の目標であるパラリンピック出場にむけ、世界ランクを上げるための努力をしています。

◇ 略歴 ◇ 1990(平成2)年 愛知県豊橋市に生まれる。2009(平成21)年 愛知大学経済学部入学。国際クラス別大会 class7 優勝3回、準優勝2回、3位1回。第13回全国オープン身体障害者愛知ふれあい卓球大会 障害者の部 優勝。



中部学生ゴルフ連盟委員長として活動・運営に貢献

◆ 推薦趣旨 ◆

内田真央さんは、2013年度中部学生ゴルフ連盟（加盟校21校）の学生（現役）役員トップである委員長に就任しました。1年間を通じ、連盟活動（協議会、ゴルフ場との折衝、連盟組織の維持・管理、他）の要職を勤め、当該連盟のスムーズな運営に多大なる貢献と尽力をしました。

◇ 略歴 ◇ 2011(平成23)年 経営学部経営学科入学。

● クラブ愛知賞

団 体

愛大防犯POLICE



中村区を中心とした防犯活動

◆ 推薦趣旨 ◆

名古屋キャンパスのある中村区を中心に活動しており、中村警察署と連携して、防犯広報活動を積極的に展開している。主に、空き巣対策、振り込め詐欺被害防止、カメラ設置重点地区防犯抑止、下校児童の見守りなどに取り組み、この活動は二度にわたり中日新聞にも掲載され、愛知大学の学生の質の高さや地域貢献活動への取り組みを広くアピールしている。

●同窓会資格試験合格者奨励賞

司法試験



長谷川 俊晶

法科大学院法務研究科2010年修了



奥村 真由

法科大学院法務研究科2011年修了



梅村 大樹

法科大学院法務研究科2013年修了



木河 賢二

法科大学院法務研究科2014年修了



岩田 晴記

法科大学院法務研究科2014年修了



北澤 嘉章

法科大学院法務研究科2014年修了



加藤 伸明

法科大学院法務研究科2014年修了

公認会計士試験



高木 えりか

会計大学院会計研究科2009年修了



三浦 翔平

経営学部会計ファイナンス学科3年次生

学生教育活動顕彰（後援会奨励賞、同窓会奨励賞、クラブ愛知賞）

概要

愛知大学関係者（教職員、在学生等）および愛知大学の卒業生が、社会・文化・学術・芸術・スポーツ・社会貢献などの分野において活躍し、一定以上の成果をおさめた個人および団体に対し、その栄誉を称え、一層の励みとすることを目的に顕彰する。

給付金額

- ① 最優秀奨励賞：100,000円
- ② 優秀奨励賞：50,000円
- ③ 奨励賞：30,000円
- ④ クラブ愛知賞：100,000円

*個人には給付金額相当の記念品を贈呈する。

申請時期

1月末まで

（学術・文化の部）

- ① 最優秀奨励賞：
全国的な学術・文化活動並びに大会で特に優秀と認められ、愛知大学の栄誉を高めた個人及び団体
- ② 優秀奨励賞：
中部・東海地区およびそれに準じた地区大会で優秀と認められ、愛知大学の栄誉を高めた個人及び団体
- ③ 奨励賞：
上記以外の活動、大会で優秀と認められた個人及び団体

（スポーツの部）

	① 最優秀奨励賞	② 優秀奨励賞	③ 奨励賞
国際・全日本大会（予選あり）	優勝、準優勝、3位	4位～8位	出場者
国際・全日本大会（予選なし）	優勝	準優勝、3位	4位～8位
中部・東海地区大会及びそれに準ずる大会		優勝	準優勝
その他の大会			優勝
マネージャー等			所属部の発展に貢献した者（卒業年次生）

出願資格

（社会貢献の部）

- ① クラブ愛知賞：
愛知大学に在学する学生や学生達で構成する団体で、顕著な社会貢献活動が認められた個人及び団体

必要書類

奨励賞推薦書

決定方法

後援会奨励賞は、愛知大学の教職員で構成される選考委員会（学生部委員会または運動部長協議会）にて選考し、愛知大学教育研修支援財団に出願された書類をもとに本財団で審査を行い、理事長が決定する。
同窓会奨励賞は、愛知大学同窓会より推薦のあった候補者を本財団で審査を行い、理事長が決定する。

同窓会資格試験合格者奨励賞

概要

愛知大学教育研究支援財団が決めた資格試験（司法試験、公認会計士試験、弁理士試験、国家公務員総合職試験、司法書士試験、税理士試験）に合格した者に対して表彰し記念品を贈呈する。

金額

30,000円相当の記念品

出願資格

愛知大学（大学院、学部、短大）に在学中または卒業した者で当該の資格試験に合格した者

必要書類

- ① 資格試験奨励賞申請書
- ② 当該の資格試験に合格したことを証明する書類（写し）
- ③ 在学証明書または卒業（終了）証明書

決定方法

出願された書類をもとに、愛知大学教育研究支援財団での審査を経て決定する。

